

農繁期 レポート

令和2年 6月号

栄ファーム

オーナー	栄運輸工業株式会社
水田面積	18.4アール
保証量	玄米 828kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二

6月に入り、田んぼの中のひえも元気になりましたので4日に中期の除草剤散布をいたしました。天気が良く気温も高かったので田んぼの中の水温も高く、除草剤もすぐに溶けて広がりひえや他の雑草に効いてきました。

稲の分けつや丈も順調で今月末頃から中干しに入ろうと思います。

6月の作業内容と稲の成長

1. 草刈り

稲作期間中、1水田あたり複数回草刈りを行います。雑草は害虫の寝床になり、稲が病気にかかってしまうからです。強い薬を撒いてしまえば草など生えてきませんが、それはお米にも影響を与えるため極力使わないようにしています。



2. 除草剤まき

水田周りは草刈り機で対応しますが水田の中は除草剤を使って対応します。全水田を手作業で草取りをすると草の成長が早すぎて間に合いません。減農薬(特別)栽培と言っているのはこういう箇所です少量使っている為です。



3. 水の管理

日南町のように昼夜の寒暖差が激しい地域では水によって稲を保温させています。稲が生長していく初期過程では気温よりも水温が大きく影響するためです。肥料の吸収も水を通して行われるため、撒く日は天気予報見て判断します。



稲の分けつ (分けつ)

田植えをしてから稲はどんどん茎が増えていくことで生長します。これを分けつと言い、茎が20本前後になるまで続きます。ただ増やせばよいのではなく、適正数を超えてしまうと稲に悪影響を及ぼすため、途中で生長を強制的に止めます。

